

● 市民の活動広場 ●

歴史をつなぐ真桑瓜

～飛騨・美濃伝統野菜のまくわうり～

● 真桑瓜(まくわうり)の由来 ●

古い文献上では、「古事記」、「万葉集」などに記述があります。故郷の誇りとして、大切に守り続けている昔品種の「真桑瓜」について、織田信長より京都所司代宛の指示書き「瓜送り状」に「真桑瓜十籠」との記述があります。

徳川幕府が確立してからは、生ものの「真桑瓜」及び「種子」を、時には中断しながらも、旧真桑村(現本巣市)の栄誉として、将軍家への献上を幕末(1867年)まで長きにわたり続けられました。



▲まくわうり栽培研究会のみなさん



▲まくわうりの摘果作業の風景

新品種の誕生と、嗜好の変化によって急激に「真桑瓜」の栽培は衰退し、一時は、絶滅の危機に直面いたしました。そこで心有る人々が立ち上がり、平成2年(1990年)に「まくわうり栽培研究会」を発足させ、牧野富太郎博士によって、学名に「真桑」の名を残すこととなった、「真桑瓜」の古里としての誇りと愛情を持って、保存継承に情熱を傾けられています。

(「真桑瓜 まくわうりの魅力」より一部抜粋)

「まくわうり」は瓜の代名詞として、国語辞典にも出ている程。美濃国真桑村産の瓜は、古くからとりわけ江戸時代には将軍家へ献上されるなど、その芳香美味は珍重されてきました。その伝統ある「真桑瓜」をわれわれは、郷土の誇りとして20名近い仲間で共同栽培して、保存継承に努めています。



まくわうり栽培研究会
会長 林 桂市 さん



議会だより編集特別委員会

◎鵜飼静雄 ○高田文一 高橋勝美 臼井悦子 江崎達己